

先進医療

子宮内フローラ検査説明書

先進医療の名称：子宮内フローラ検査

適応症：不妊症（これまで反復して着床・妊娠に至らないものに限る）、慢性子宮内膜炎疑い又は難治性細菌性陰症

（先進性）

次世代シーケンサー（new generation sequencer：NGS）を用いた、子宮内腔液に含まれる細菌の16SリボソームRNA解析により、通常の培養検査または、子宮鏡、病理学的検査では困難な子宮内細菌叢の正確な把握が可能である。結果に基づいて治療を行うことで着床率や生児獲得率が改善する可能性がある。

（概要）

子宮内膜細胞採取器具を用いて、自然周期では黄体期に、ホルモン補充ではプロゲステロン投与後5-6日目に子宮内膜を含む子宮内腔液を採取する。次世代シーケンサー（new generation sequencer：NGS）を用いて、子宮内腔液に含まれる細菌の16SリボソームRNA解析を行うことで、Lactobacillus属の占める割合、その他細菌叢の分布を明らかにする。

（効果）

子宮内細菌叢の正確な把握が可能となる。検査結果については、Lactobacillus属が90%以上を正常、90%以下を異常とする。異常である場合、加療後の着床率の上昇、臨床的妊娠率の上昇、生産率の上昇

（副作用・合併症）

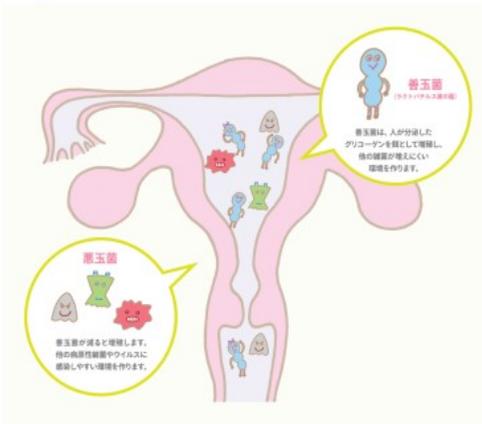
子宮内腔液の採取を行うことによる擦過やそれによる炎症

子宮内フローラ検査

“**フローラ**”とは、細菌の集合体を指します。

細菌は人間の体重の約3%を占めており、体内の各臓器に分布し集合体(フローラ)を形成しています。フローラは各臓器において様々な機能を担っており、フローラの乱れは疾患に繋がることがあります。

もちろん、子宮にもフローラは存在し、妊娠成立、維持だけでなく周産期予後との関連性が指摘されています。

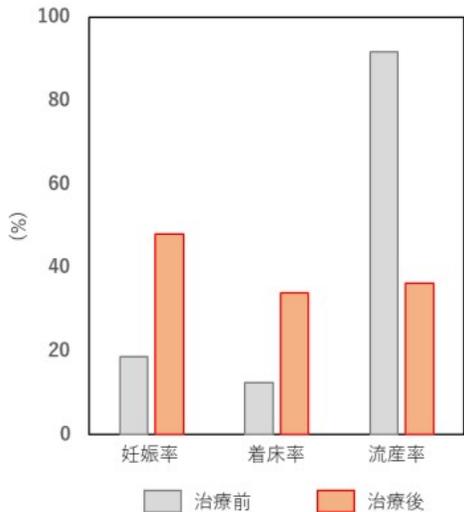


子宮内フローラでは、**乳酸桿菌(Lactobacillus)**が優位な人の方が**妊娠率・出産率が高くなる**ことが報告されています¹⁾。

Lactobacillusは乳酸を生成し周囲に酸性環境を作ることによって、有害な細菌の増殖を防ぐ働きをしています。Lactobacillusが不足すると、炎症などのリスクが高くなり、着床環境が悪化する可能性があります。

当院では以前より子宮内フローラと妊娠との関係に着目しており、現在までに、**Lactobacillusが80%未満の場合で着床環境が悪化する**可能性があること²⁾、また、**Lactobacillusが80%未満の方に対しては、抗生物質と乳酸菌膣坐薬の併用が最も効果的であり、治療効果が高い**こと³⁾を見出してきました。

基本的には、流産を繰り返される方や、体外受精において良好胚を移植しても着床しない方に対して本検査を提案していますが、興味があればいつでもお尋ねください。



1) Moreno I, Codoner FM, Viella F, et al. Evidence that the endometrial microbiota has an effect on implantation success or failure. *Am J Obstet Gynecol.* 2016;215:684-703

2) D. Kadogami, Y. Nakaoka, Y. Morimoto, Use of a vaginal probiotic suppository and antibiotics to influence the composition of the endometrial microbiota. *Repro Biology.* 2020 ; 20(3) : 307-314.

3) 門上大祐 第65回 日本生殖医学会学術集会